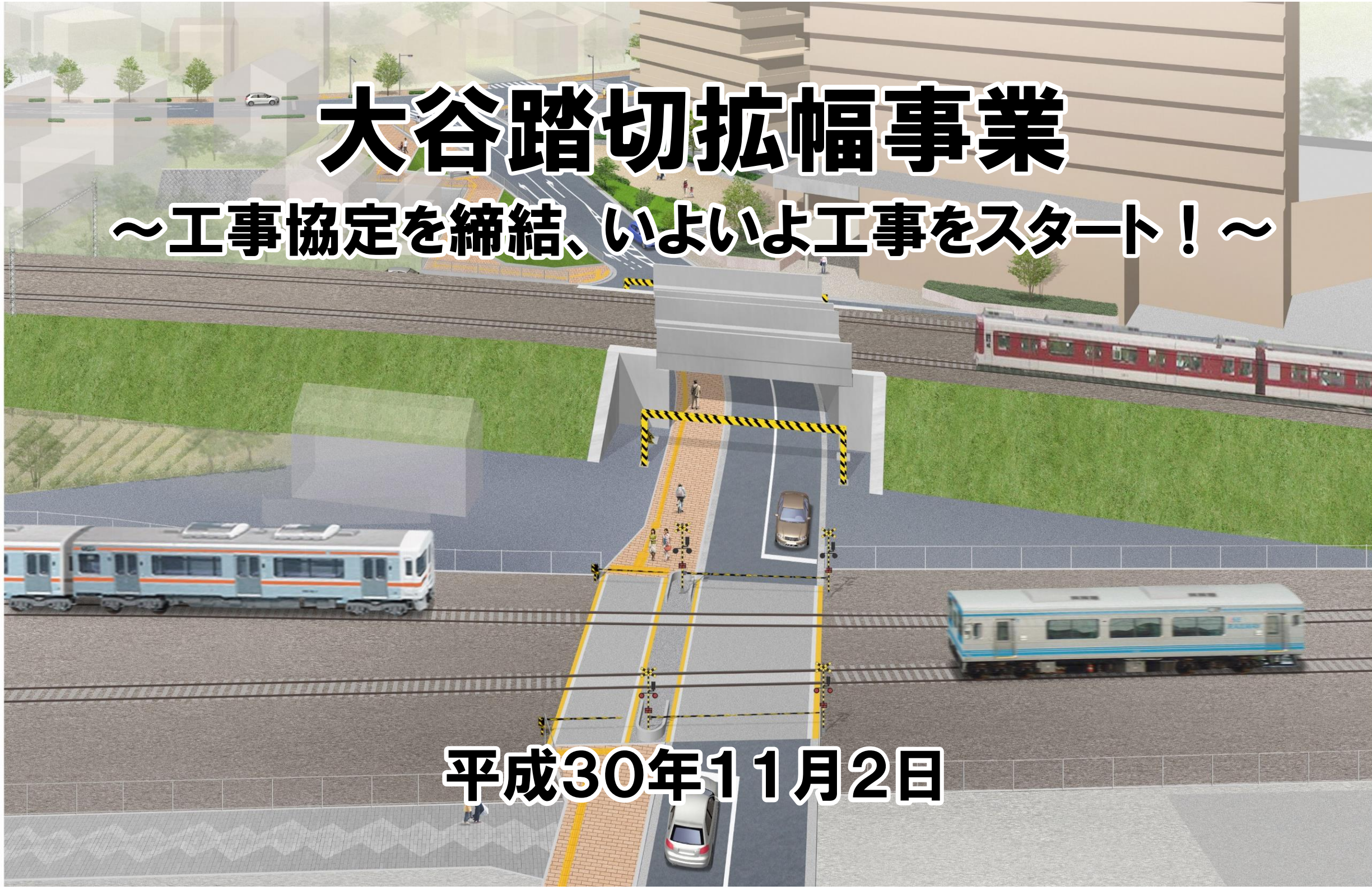


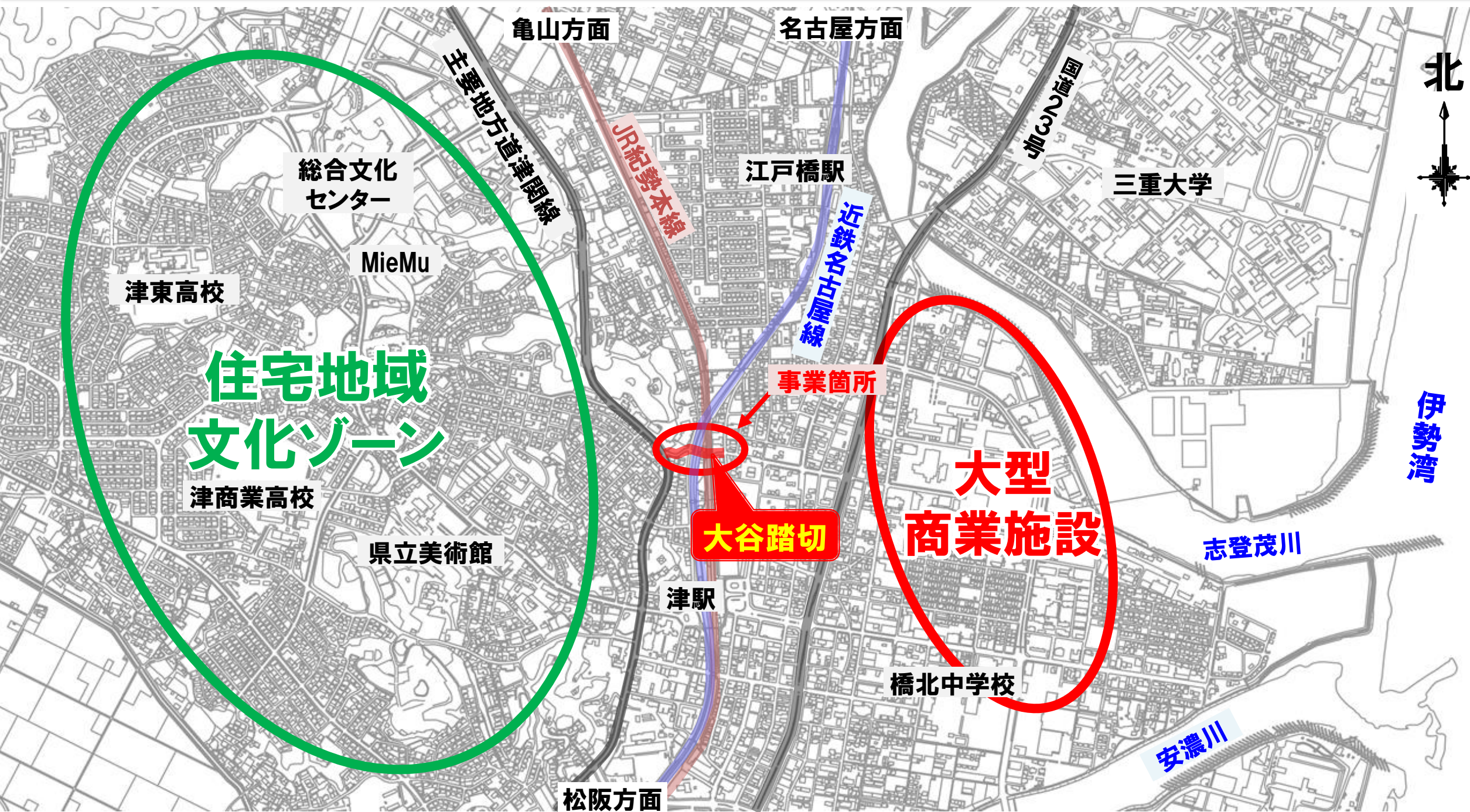
大谷踏切拡幅事業

～工事協定を締結、いよいよ工事をスタート！～

平成30年11月2日



大谷踏切周辺の状況



これまでの取り組み

大谷踏切 拡幅の必要性

- ・幅員が狭いため乗用車1台しか通行できず、自動車と歩行者が輻輳
- ・高さ制限で救急車が通行不可

平成10年度

- 大谷踏切の拡幅について鉄道事業者と合意
「大谷踏切道拡幅にあたっては、他の踏切を廃止することを基本とする」

平成27年度

- 一志町井生地区とJR名松線「上井生(かみいう)踏切」廃止合意
工事・設計等 : 道路予備設計等(H27年度～H28年度) 【決算額 2,505,600円】

平成28年度

- 5月20日 鉄道事業者と廃止に関する覚書締結
- 12月15日 上井生踏切廃止
- 1月27日 国土交通省から踏切道改良促進法の「改良すべき踏切」に法指定
工事・設計等 : 大谷踏切予備設計等 【決算額 103,119,560円】

平成29年度

- 社会資本整備総合交付金(防災・安全交付金事業)の事業として採択
工事・設計等 : 道路詳細設計、線形測量等 【決算額 62,396,066円】

平成30年度

- 10月12日 JR東海及び伊勢鉄道と工事協定締結(分岐器移設工事)
津市実施 : 大谷踏切詳細設計等
JR東海実施 : 分岐器移設工事
近鉄実施 : 近鉄架道橋詳細設計 【予算額 176,463,000円】

今後のスケジュール

	2019年度 (平成31年度)	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
津市	用地買収等	道路工事	道路工事	道路工事	道路工事
JR東海 伊勢鉄道	分岐器移設 工事	踏切工事	踏切工事		
近鉄	近鉄架道橋 詳細設計		近鉄架道橋 工事	近鉄架道橋 工事	近鉄架道橋 工事

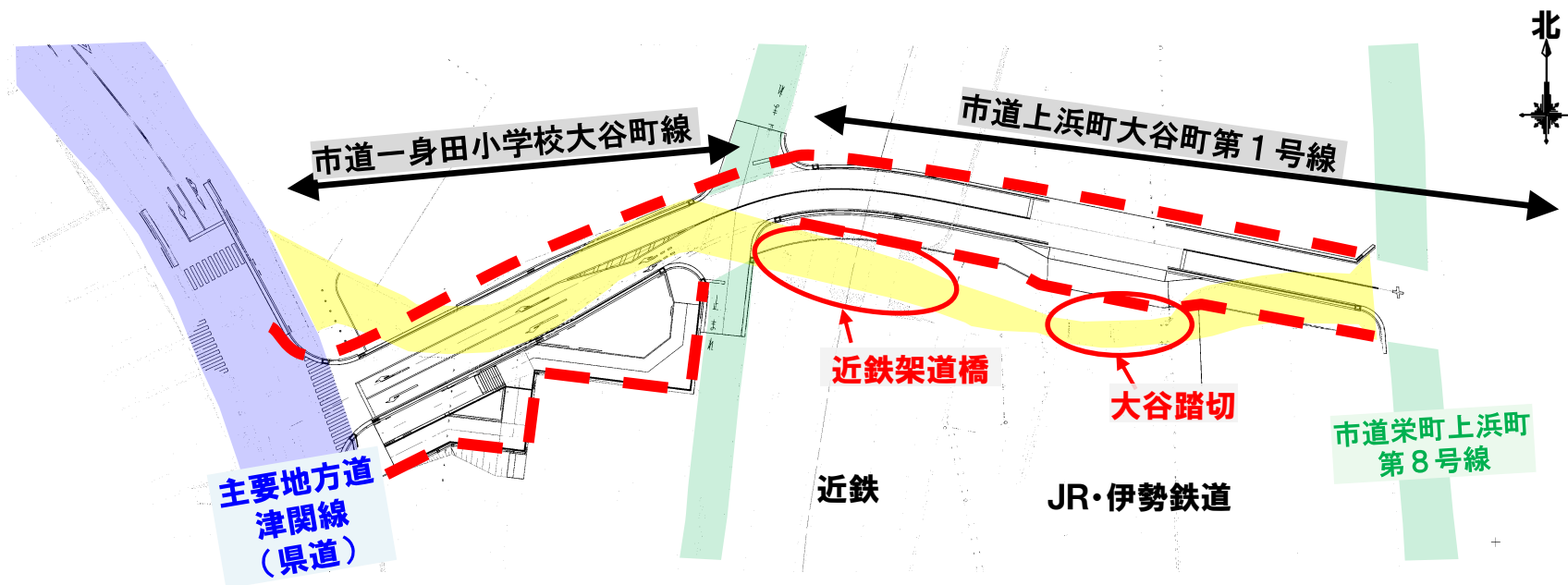


2024年度 供用開始！

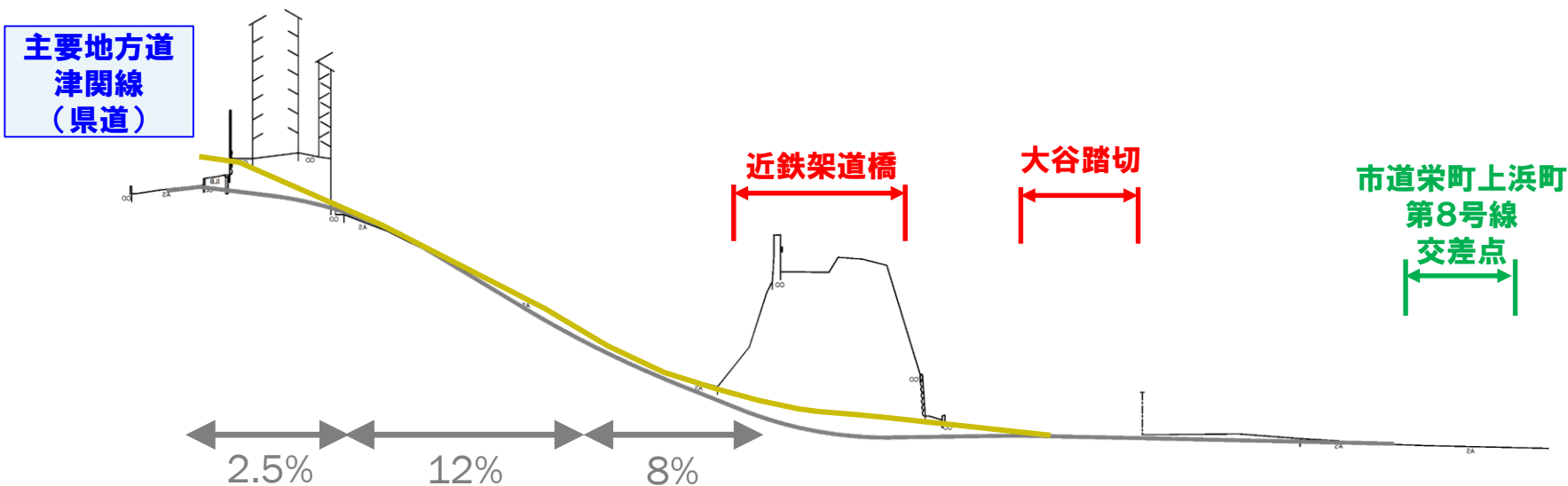
【総事業費 約25億円】



現況との比較 ① (平面図、縦断図)



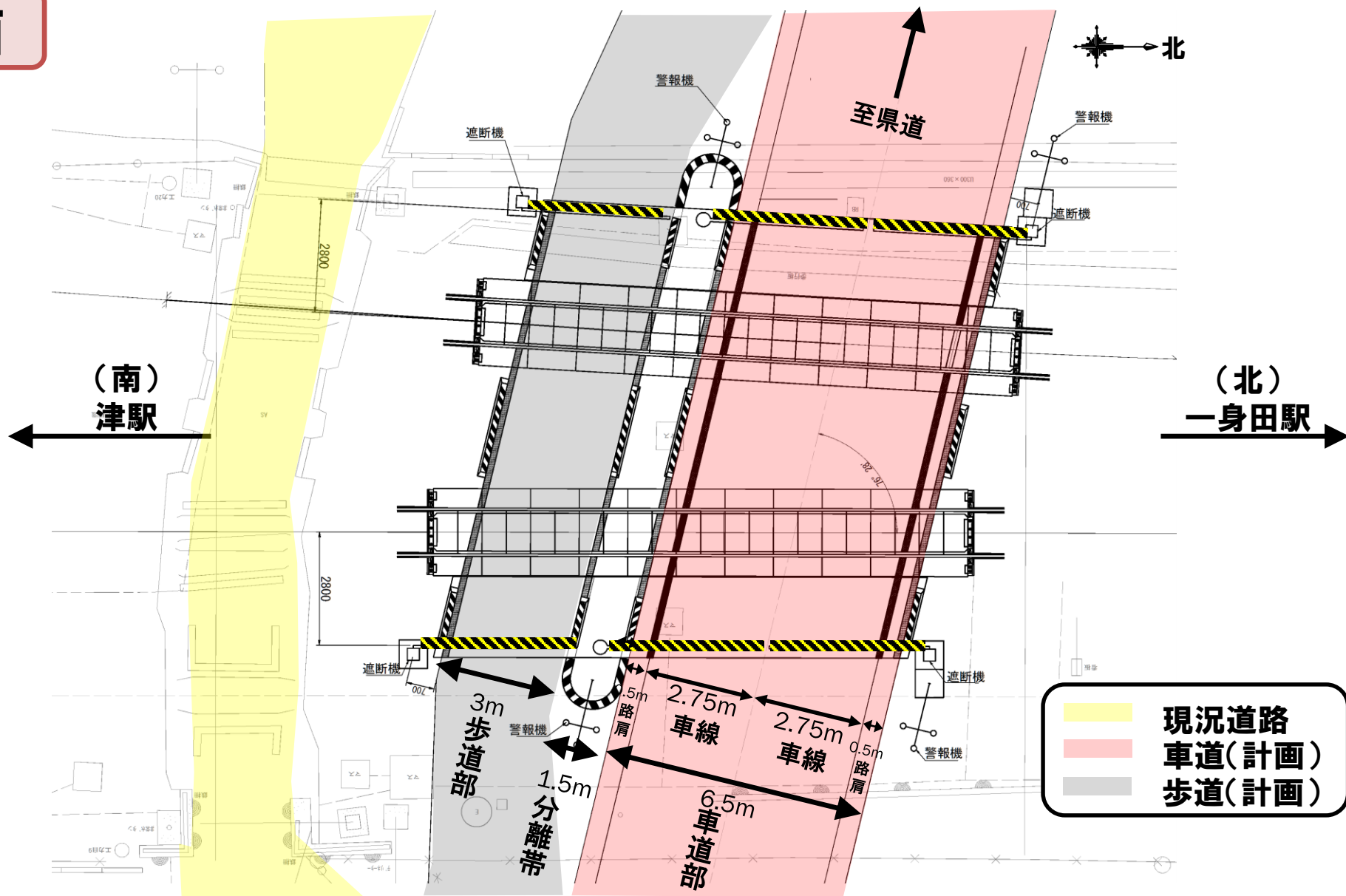
現況と計画平面



縦断図

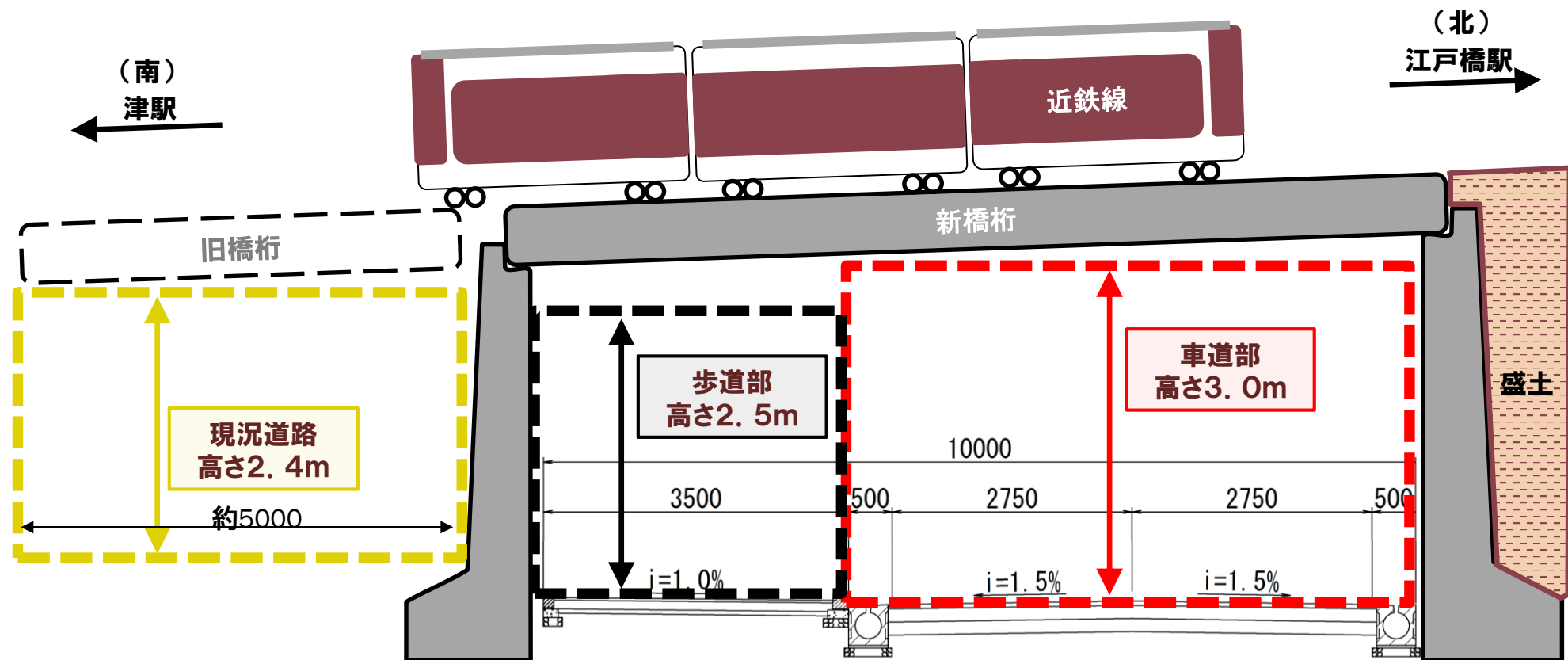
現況との比較 ②（車道部、歩道部）

大谷踏切 計画平面



現況との比較 ③（近鉄架道橋）

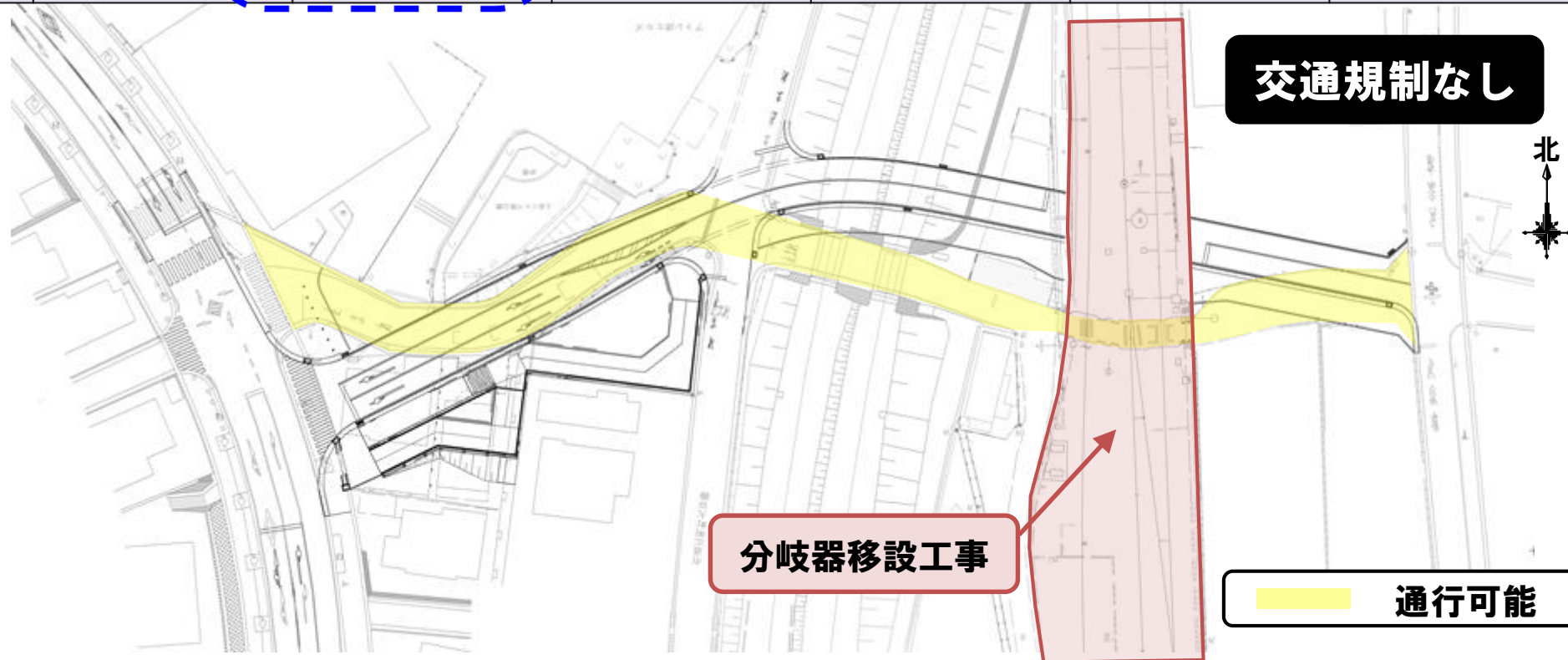
近鉄架道橋 計画断面



- ・ 高規格の救急車が通行可能となる 3mの高さを近鉄架道橋下に確保

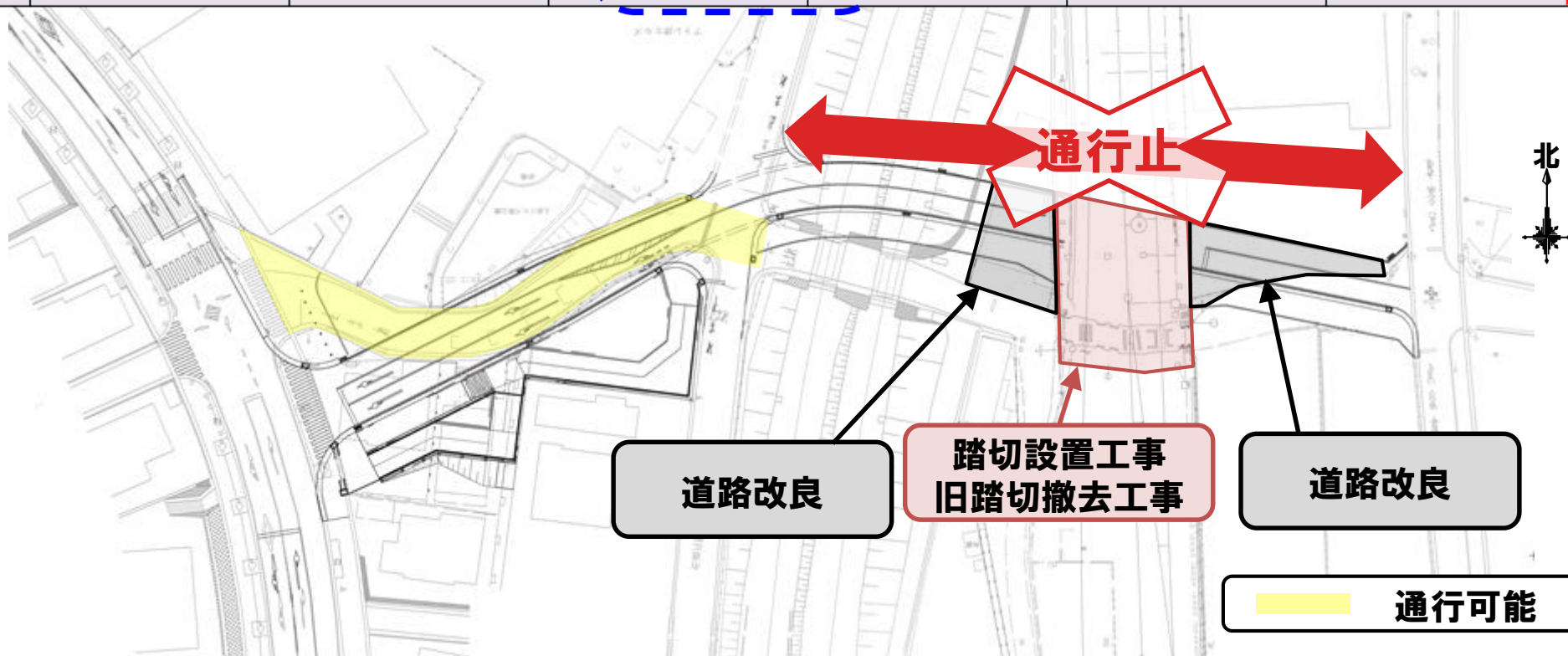
工事のスケジュール ①

	平成30年度 (2018年度)	平成31年度 (2019年度)	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
市道工事		用地買収等	道路改良	道路改良	道路改良	道路改良	
近鉄工事				近鉄架道橋			
JR工事		分岐器移設	踏切部				
交通規制				歩行者通行止め 車両通行止め			全面開通



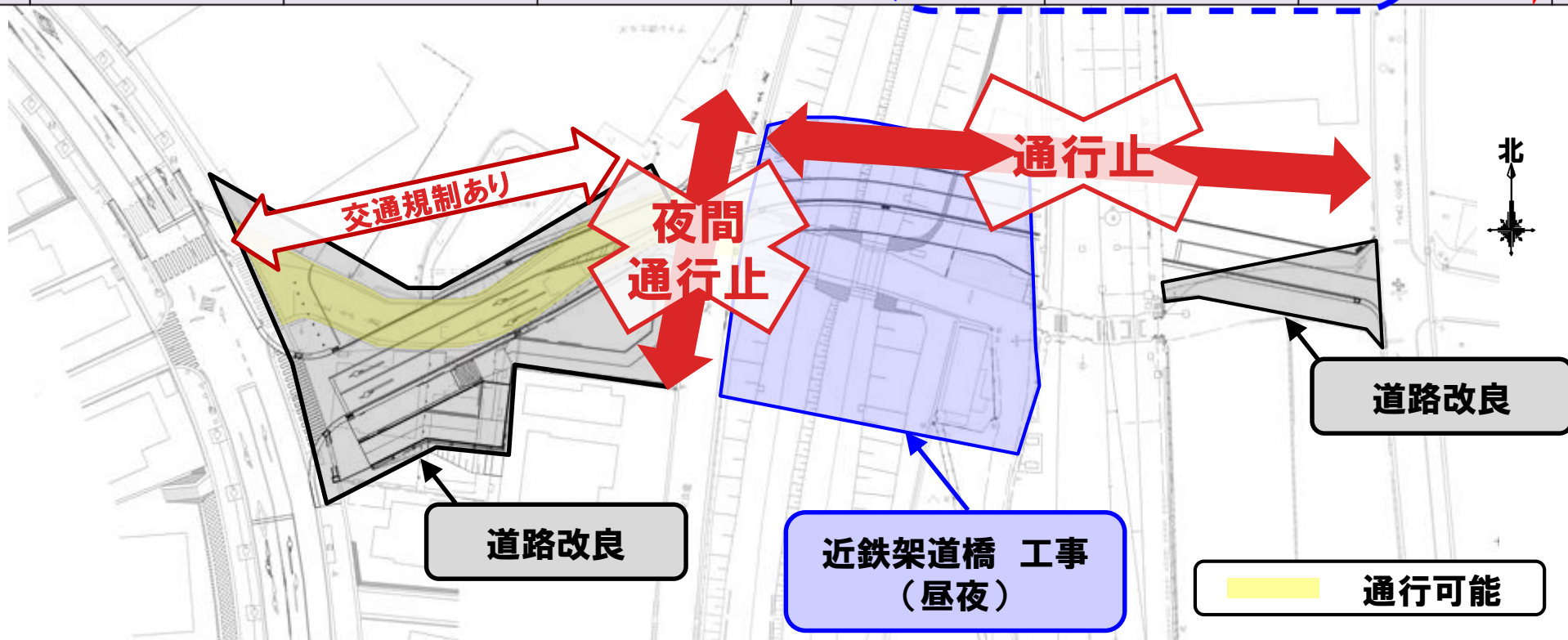
工事のスケジュール ②

	平成30年度 (2018年度)	平成31年度 (2019年度)	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
市道工事		用地買収等	道路改良	道路改良	道路改良	道路改良	
近鉄工事					近鉄架道橋		
JR工事		分岐器移設	踏切部				
交通規制				歩行者通行止め 車両通行止め			全面開通



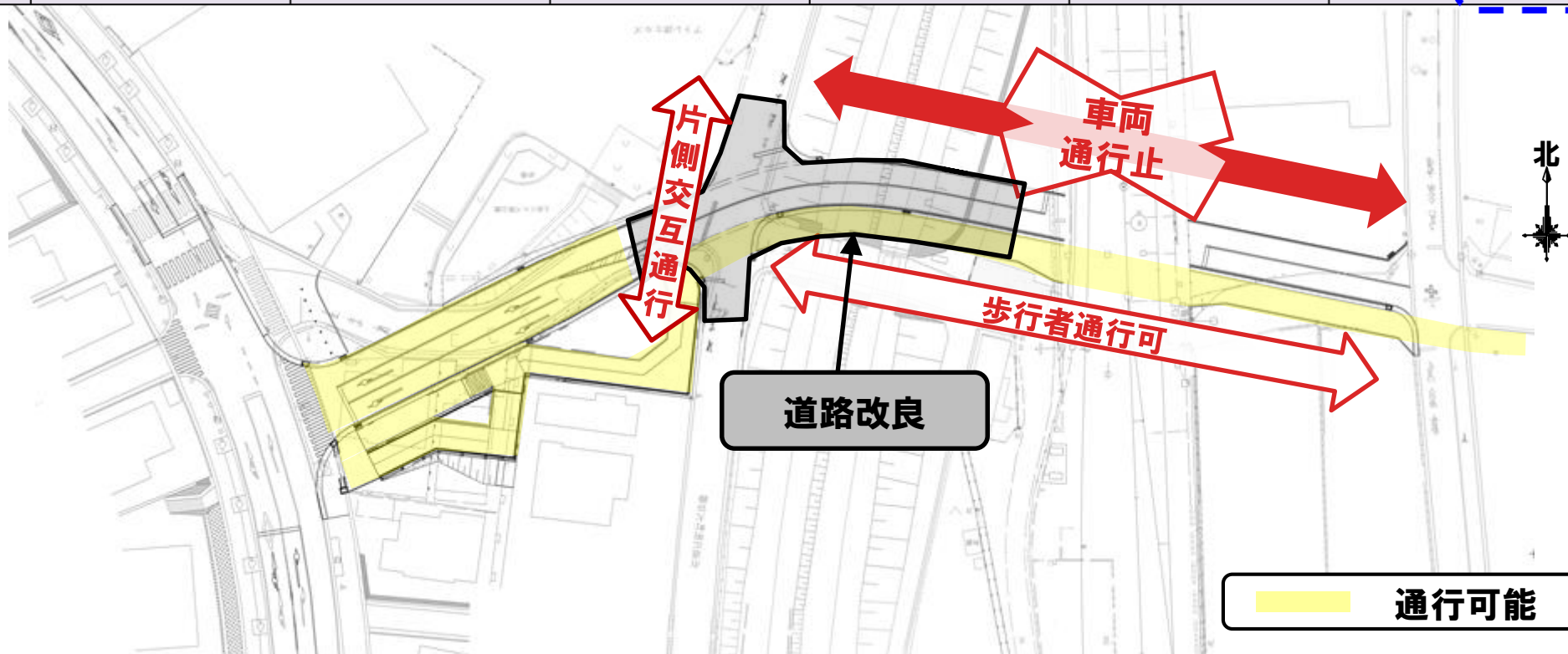
工事のスケジュール ③

	平成30年度 (2018年度)	平成31年度 (2019年度)	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
市道工事		用地買収等	道路改良	道路改良	道路改良	道路改良	
近鉄工事				近鉄架道橋			
JR工事		分岐器移設	踏切部				
交通規制				歩行者通行止め 車両通行止め			全面開通



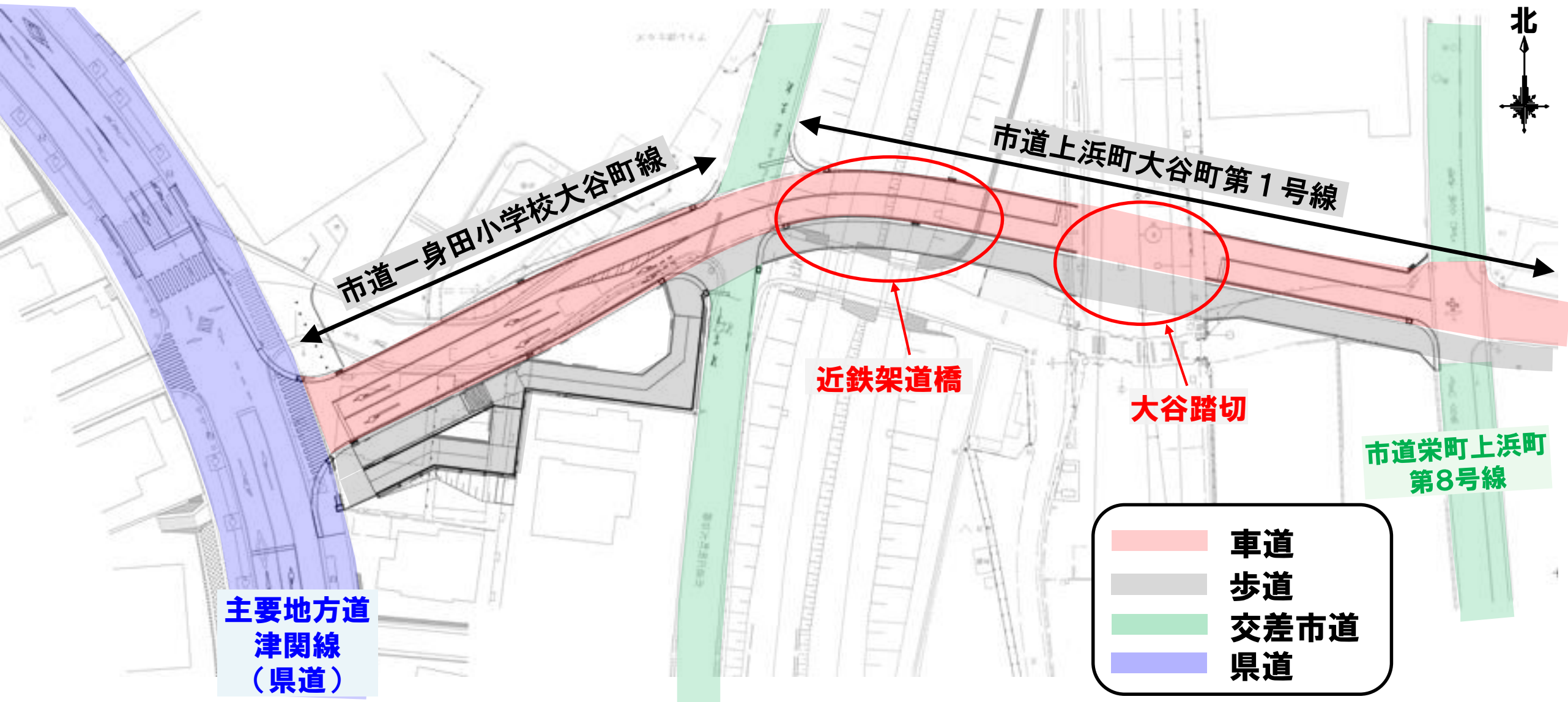
工事のスケジュール ④

	平成30年度 (2018年度)	平成31年度 (2019年度)	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
市道工事		用地買収等	道路改良	道路改良	道路改良	道路改良	
近鉄工事				近鉄架道橋			
JR工事	分岐器移設		踏切部				
交通規制			歩行者通行止め 車両通行止め				全面開通



2024年度 供用開始

供用開始時の全体図



自治体初“継続賞”!!

“CRMベストプラクティス賞” 4年連続受賞!!

高齢者外出支援事業「シルバーエミカ」

～マイナンバーカードと公共交通の連携による高齢者の健康・生きがいづくり～



平成30年11月2日

CRMベストプラクティス賞とは

CRMベストプラクティス賞の概要

一般社団法人CRM協議会が主催し、顧客中心主義経営（※CRM）の実現を目指し、戦略、組織等の観点から顧客との関係を構築し、成果を上げている企業・官公庁等を「CRMベストプラクティス賞」として、選定・表彰。CRM推進のモデルケース創りや人材育成として広く役立てることを目的に平成16年度に創設され、毎年実施されている

一般社団法人CRM協議会の概要

CRMのあるべき姿の研究・追求と推進を目的に、平成12年に設立、平成21年10月1日から一般社団法人として活動し、経済産業省の支援のもと、運営されている団体

※CRM = CUSTOMER-CENTRIC RELATIONSHIP MANAGEMENT

CRMベストプラクティス賞4年連続受賞の経緯

平成27年
(2015年)



津市職員行動規範
「市民に尽くす行動規範・先行モデル」

平成28年
(2016年)



津市行政経営計画
「地域連携・対話型モデル」

平成29年
(2017年)



津市公共施設等総合管理計画
「情報公開による公共資産の有効活用モデル」

平成30年
(2018年)



津市高齢者外出支援事業“シルバーエミカ”
「高齢者外出促進モデル」

※4年連続受賞により、自治体初の
“継続賞”を併せて受賞



2018CRMベストプラクティス受賞の理由

受賞モデル名

高齢者外出促進モデル

受賞理由

- 昨年までの受賞に引き続き、市民生活視点での様々な活動を継続
- 今年は、超高齢社会における課題である高齢者の健康・生きがいづくりの支援として、マイナンバーカードと公共交通を連携させた高齢者外出支援事業シルバーエミカを具現化
- 国の「地域経済応援ポイント導入による好循環拡大プロジェクト」の実証事業として、国が構築したマイキープラットフォーム・自治体ポイント管理クラウドを活用する等、最少の経費で最大の効果を獲得する創意工夫を行う

2018年受賞14企業・団体名一覧

受賞企業・団体名(五十音順・敬称略)	受賞モデル名
大阪ガス株式会社 《大星賞》	エネルギー事業CRM活動実践モデル
サトーホールディングス株式会社	営業と保守の連携基盤モデル
資生堂ジャパン株式会社 コンシューマーセンター 《フジサンケイビジネスアイ賞》	チャネル拡充によるVOC実施モデル
スターツ出版株式会社 CS推進室	CX重視メディア・モデル
株式会社セゾン情報システムズ HULFT事業部 《継続賞》	データドリブン顧客理解・解決モデル
津市 《継続賞》	高齢者外出促進モデル
DHLジャパン株式会社 カスタマーサービス本部	コールセンター専任制による顧客理解モデル
株式会社東急コミュニティー	設備の声の統合CRMモデル
株式会社ビジョン 《継続賞》	価格競争力と自動化によるサービス強化モデル
株式会社フォーラムエイト 《継続賞》	人事システム連携型CRMモデル
株式会社ブロードリーフ	営業部門変革モデル
株式会社ホンダオート三重	板金修理情報・全社活用モデル
みずほ証券株式会社	営業活動高度化モデル
三井住友海上火災保険株式会社 コンタクトセンター企画部 《継続賞》	AI活用応答スピード改善モデル

2018CRMベストプラクティス賞表彰式・事例発表

日時

平成30年10月23日(火)

会場

東京アメリカンクラブ(東京都港区)

主催

一般社団法人CRM協議会

後援

フジサンケイビジネスアイ
(株式会社日本工業新聞社)

主な
内容

①表彰式

受賞14団体への賞状・トロフィー授与
※受賞に当たり、津市長ビデオメッセージ
を放映

②特別講演・受賞事例発表

特別講演: 藤枝純教氏(一般社団法人CRM協議会長)

受賞事例発表: 津市ほか13団体による
受賞事例の発表



新たな取組の展開 ～昨年度受賞モデルの今後の展開～

公共財活用の新展開に向けて ～“B to B”から“G to B”へ～

2017CRMベストプラクティス賞
「情報公開による公共資産
の有効活用モデル」
受賞内容を英訳

2018CRMベストプラクティス賞
事例発表において
津市職員(職務経験者採用)
が英語でプレゼンテーション!!

Tsu City

Best Practice
of Customer Relationship Management

Effective Utilization of Public Assets through Open-Data

A large amount of infrastructure and public facilities was built in Japan during the period of rapid economic growth of the late 1950s to the early 1970s, and much of this is now in need of reconstruction. The immense cost of repairing, improving, and maintaining these facilities is an issue that many municipalities face, under the current economic conditions of decreasing population and reduced tax revenue due to the falling birthrate and ageing population.

Mayor of Tsu City
Yasuyuki Maeba

ation and application of assets – lands and buildings – is one of the most
ing themes for private companies as well as for local municipalities. I am
oud that our efforts were recognized as a model of "Effective Utilization of
assets through Open-Data".

ity has also, for the second consecutive year, received awards of "Best
y in Customer Relationship Management", "Model Code of Conduct for
ment to Service to the Public", and "Model of Dialogue-based Interregional
ation". These achievements are outcome of specific city plans and
Our "Code of Conduct for Commitment to Service to the Public" is based
"Code of Conduct for Officials of Tsu City Government", and our
"Dialogue-based Interregional Cooperation" modal-status came about due to the
"Local Administration Management Plan of Tsu City Government". Furthermore,

Overview of Tsu, Current Situation and Issues of Public Facilities

Merger of 10 cities 1,100 Facilities 110 billion yen

81% of facilities Over 30 years Operation and maintenance cost: 145 billion yen

Total assets: 949 billion yen

Reduction of assets: 949 billion yen

Sale and utilization of facilities in cooperation with private companies

Business to Business (企業間取引)からGovernment to Business(政府・企業間取引)へ

世界的視野での行政経営 → 公共財活用の新展開!!